

株主・投資家の皆様へ (第84期報告書)

2022年4月1日～2023年3月31日



ご挨拶・決算ハイライト

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、当社は2023年3月31日をもって、第84期事業年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）を終了いたしましたので、ここに報告書をお届けし、事業の概況等につきまして、次のとおりご報告申し上げます。
当社は、持株会社機能および組織を見直し、グループ経営のさらなる推進・強化を図るとともに、グループ全社員が一丸となって、同じビジョン、同じ目標に向かって経営を進めていくことにより、持続的な成長を目指すことを目的として、2023年7月1日付にて、商号を「株式会社エスライン」から「株式会社エスライングループ本社」に変更することといたしました。
これからも企業価値向上に向け専心努力をいたす所存でございますので、株主の皆様には、引き続き一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月

代表取締役社長
山口嘉彦

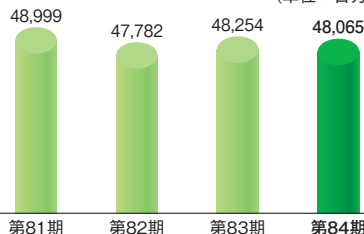


決算ハイライト

営業収益

480億65百万円 前期比△0.4%

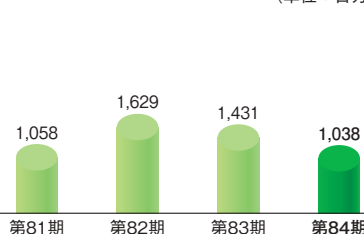
(単位：百万円)



経常利益

10億38百万円 前期比△27.5%

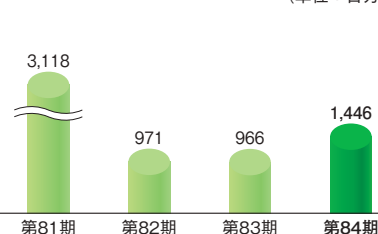
(単位：百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

14億46百万円 前期比49.7%

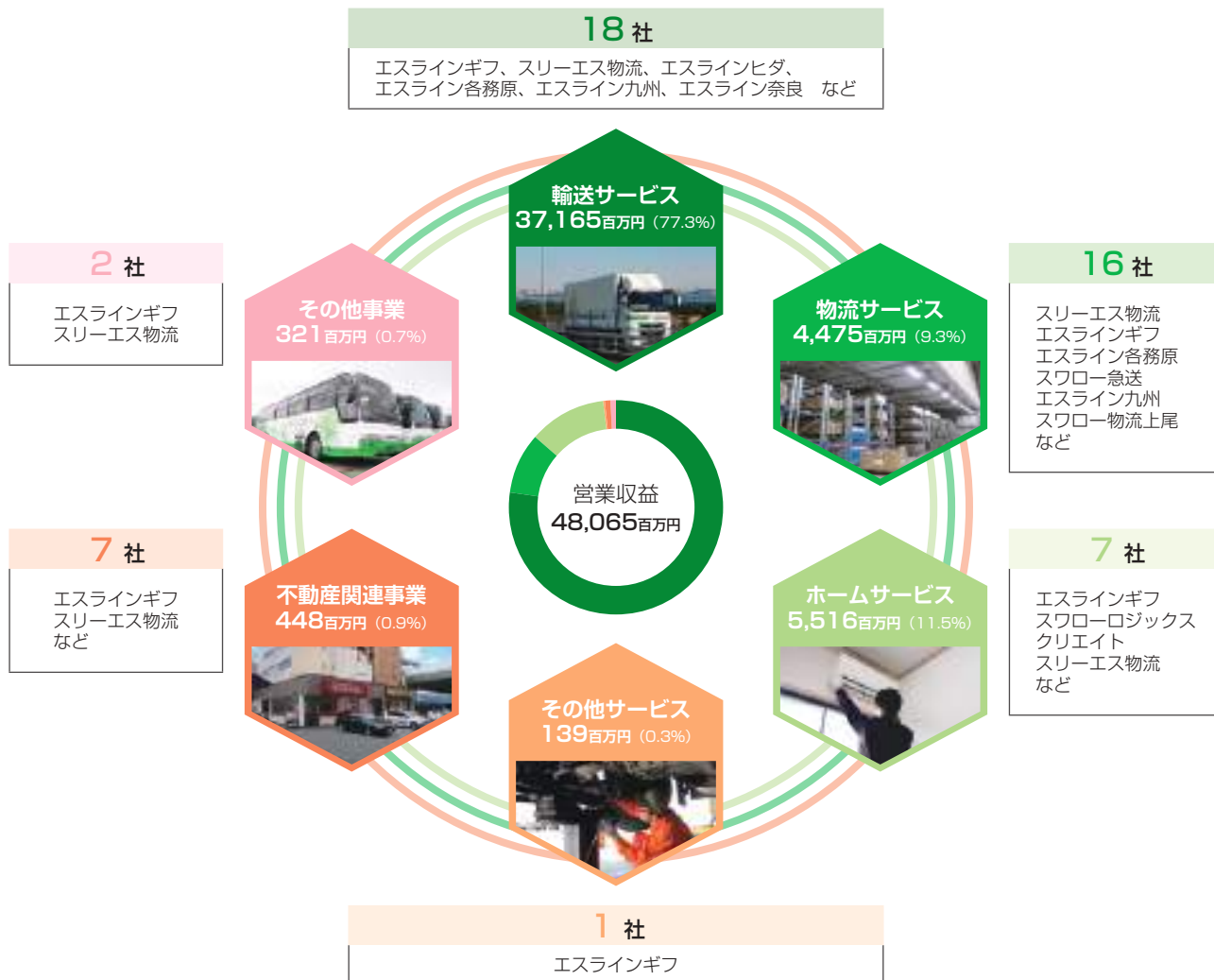
(単位：百万円)



- 経済活動は回復し、貨物輸送量は増加するものと期待していたが、コロナ禍を契機として生活様式や流通形態が変化し、インターネット通販等による個人向けの宅配貨物は増加したものの、企業間の貨物輸送量は、対面による商品の消費活動が低迷したことで、回復が見られない状況が続いた
- 燃料サーチャージの収受や運賃の是正交渉等の営業活動を継続的に進めたものの、貨物輸送量の減少により、営業収益は減収
- 長引く燃料価格の高騰や、慢性的なドライバー不足により外注費用が大きく増加し、営業利益、経常利益は減益となったが、固定資産売却等により親会社株主に帰属する当期純利益は増益

エスライングループ事業紹介

純粋持株会社である株式会社エスラインは、特色ある20のグループ会社を傘下に有し、物流関連事業（輸送サービス・物流サービス・ホームサービス・その他サービス）、不動産関連事業、その他事業を展開しており、グループ各社がそれぞれの得意分野を活かしながら有機的に結合し、企業価値の向上に向けて、グループ一丸となって取り組んでおります。

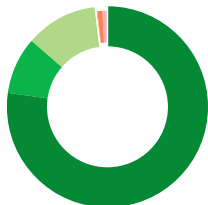


セグメント情報

物流関連事業

472億95百万円 前期比△0.4%

輸送サービス、物流サービス、ホームサービスなど



- ✓ 「輸送サービス部門」では、特別積合せ貨物の貨物輸送物量が低調に推移し、また、長距離貨物の減少により運賃収入が減少したことによって、減収
- ✓ 「物流サービス部門」では、海上コンテナの動きが回復基調に向かい、また、新設した新物流センターの増床効果や施設の効率的な活用が寄与し、増収
- ✓ 「ホームサービス部門」では、関東および東北地区における家電配送網の面の充実や拡大によって、増収



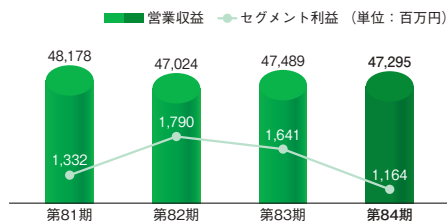
以上の結果、物流関連事業全体では、減収



菓子類の保管・加工を行う
〔株〕スリーエス物流本社〕



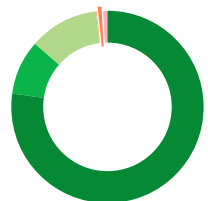
輸入貨物の貸切輸送を専門に行う
〔株〕エスラインギフ京浜港湾センター〕



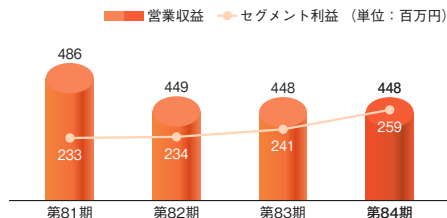
不動産関連事業

4 億48百万円 前期比0.0%

不動産賃貸業



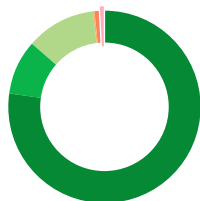
- ✓ 当社グループ各社にて保有している不動産の有効活用を図るために、外部への賃貸事業を営んでおります。



その他事業

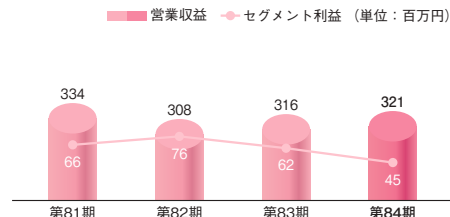
3億21百万円 前期比1.6%

旅客自動車運送事業、売電事業



- ☑ 「旅客自動車運送事業」では、大学・高校のクラブ・サークル活動等の遠征や冠婚葬祭時の送迎業務が一部回復したことによって、増収
- ☑ 「売電事業」では、前期に比べ発電量が減少したことによって、減収

以上の結果、その他事業全体では、増収



グループ会社一覧



この一年の主な出来事

IR活動

決算説明会を開催しました。

2022年5月および11月に決算説明会を開催しました。ここでは中期経営計画の進捗状況や決算数値の見通し、営業面での施策等について説明を行いました。



エスライン

M&A

株式会社クリエイトの株式を取得し子会社化しました。

東北地区のホームサービス部門強化のため、(株)クリエイトを子会社化しました。(株)クリエイトは、東北エリアに4営業所、千葉県に1営業所を構え、家電製品の配送や設置工事業務を強みとして、物流サービスを展開している会社であり、以前から、当社グループの協力会社としてホームサービス事業を行ってまいりました。今回の連結子会社化を機に、グループ内での経営資源の連携や情報システムの共有など協業化を進め、生産性の拡大や効率化を図ることにより、さらなる業績の向上に向け、取り組んでまいります。



エスライン

2022

4

5

5/13
決算発表

6

6/29
定時株主総会

7

8

8/5
第1四半期
決算発表

9

施設のリニューアル

本社・高山支店をリニューアルしました。

(株)エスラインヒダ本社・高山支店は、1994年の開設後、施設の老朽化が進んだことから、リニューアル工事（外壁塗装・屋根カバー工事・照明のLED化等）を実施しました。この改修により、職場環境が大幅に改善され、また、併設された倉庫もリニューアルしたことで、高山支店内における作業効率性が格段に向上しました。



エスラインヒダ

IR活動

名証IRエキスポに参加しました。

コロナ禍により3年ぶりの開催となった、名古屋証券取引所主催の「名証IRエキスポ2022」に出展しました。今後も、IRイベントに継続して参加し、より多くの方にPRしていきたいと考えております。



エスライン

施設の新設

海老名支店・海老名物流センターがオープンしました。

㈱エスラインギフにおいて、旧厚木支店が海老名市に新築移転し、輸送と物流の一貫サービスを行う「海老名支店・海老名物流センター」としてオープンしました。海老名支店・海老名物流センターは、東名・新東名高速道路、圏央道にアクセスがしやすく、関東圏への配送に絶好な立地にあります。

また、大規模な保管能力を有する倉庫とターミナルが併設されていることから、保管～物流加工～配送までの一貫サービスを、スピーディーに効率良く、ご提供することが可能となりました。

この施設が、将来的に当社グループにとって、文字通り「関東の玄関口」となるよう、施設の有効活用と、サービスの拡大を図っていきます。

(2階建、敷地面積：2,703坪、延床面積：1,846.25坪、倉庫面積：807.51坪)



エスラインギフ

10

11

11/7
第2四半期
決算発表

12

2023

1

2

2/10
第3四半期
決算発表

3

施設のリニューアル

神戸支店をリニューアルしました。

㈱エスラインギフ神戸支店は、1990年の開設後、施設の老朽化が進んだことから、リニューアル工事（事務所の新築・仮眠室の個室化・照明のLED化等）を実施しました。

特に、事務所を1階プラットフォーム上に新築したことにより、お客様、そして現場との距離が近くなったことから、作業効率が格段に向上し、これまで以上にお客様のご要望にお応えできる施設となりました。



エスラインギフ

施設のリニューアル

熊本支店をリニューアルしました。

㈱エスライン九州熊本支店は、1987年の開設後、施設の老朽化が進んだことから、リニューアル工事（外壁塗装・屋根カバー工事・事務所リフォーム・仮眠室の個室化・照明のLED化等）を実施しました。

この改修により、職場環境が大幅に改善され、働きやすい職場へと生まれ変わりました。



エスライン九州

中期経営計画 『ありがとう創造計画』 2023年3月期～2025年3月期（3か年）

◆ 中期経営計画の方針 ◆

規模の拡大

- ① 確固たる収益基盤の構築
- ② 特定の輸送・物流サービス（取扱商品、荷主層、地域、運送形態）を対象に、推進体制を重点的に強化

質の向上

- ③ 次世代を見据えた最新技術の導入とオペレーションの洗練化
- ④ 人材の質の更なるレベルアップのためのインフラ整備

推進体制・基盤強化

- ⑤ グループとしての推進体制の再構築
- ⑥ 業績管理の中核である事業セグメント別業績管理のテコ入れ

◆ 経営目標 ◆

項目	2025年3月期 (最終年度)
営業収益	540億円
経常利益	21億6千万円
経常利益率	4.0%
ROE	5.0%

◆ 今期の取り組み事項 ◆

規模の拡大

- ◆ M&Aの実施
株式会社クリエイトの子会社化・・・ホームサービスのエリア拡大
- ◆ 新たな拠点の立ち上げ
・海老名支店、海老名物流センターの新設
・大手衣料量販店様向けの配送デポを東京・浜松・長野地区に開設
・・・輸送サービスを強化
- ◆ 新規組織の立ち上げ
・中部貸切業務センター
・スワロー引越委員会
・京浜港湾センター
- ・・・貸切業務の拡大
・・・引越サービスの拡大
・・・港湾貨物の取込み

質の向上

- ◆ 人員の強化
・ドライバーの採用強化
・社員教育の強化
- ・・・内製化による備車費の削減
・・・サービスレベルの向上
- ◆ DX化の推進
・請求書や給与明細の電子化
・送り状のイメージデータ化
- ・・・業務のDX化、事務作業の軽減

推進体制・基盤強化

- ◆ 新たなHD体制に向けた体制作り
株式会社エスラインの商号変更・・・HD機能の再構築

S-line THANKS PROJECT
「ありがとう」のために今日も走る。



トピックス

2023年7月1日より社名が変更になります。

このたび当社は2023年7月1日付にて、商号を「株式会社エスライン」から「株式会社エスライングループ本社」に変更することといたしました。



◆ 新社名のロゴデザイン ◆

株式会社 **エスライングループ本社**

◆ 商号変更の目的 ◆

グループ経営のさらなる推進・強化を図るとともに、長期ビジョンで掲げる事業像『商品を送る安心と、受け取る嬉しさをつなぐ、ありがとう創造企業』を実現させ、グループ全社員が一丸となって、同じビジョン、同じ目標に向かって経営を進めていくことにより、持続的な成長を目指す。

◆ 当社の社名の変遷 ◆

1947年	岐阜合同産業(株)として会社設立
1948年	岐阜トラック(株)に商号変更
1949年	岐阜トラック運輸(株)に商号変更
1972年	(株)エスラインギフに商号変更
2006年	純粋持株会社体制へ移行し、(株)エスラインに商号変更
2023年	(株)エスライングループ本社に商号変更



財務データ

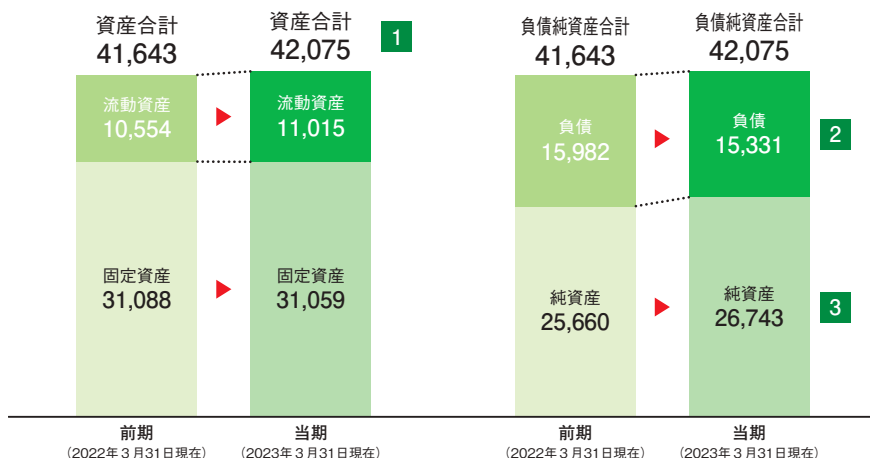
決算短信などの詳細情報は

エスライン IR

検索

連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)



ポイント

1 資産

連結資産合計は420億75百万円（前連結会計年度末416億43百万円）となり、前連結会計年度末比4億31百万円増加しております。この主な要因は、現金及び預金の増加であります。

2 負債

連結負債合計は153億31百万円（前連結会計年度末159億82百万円）となり、前連結会計年度末比6億51百万円減少しております。この主な要因は、借入の返済による減少であります。

3 純資産

連結純資産合計は267億43百万円（前連結会計年度末256億60百万円）となり、前連結会計年度末比10億82百万円増加しております。この主な要因は、利益剰余金の増加であります。

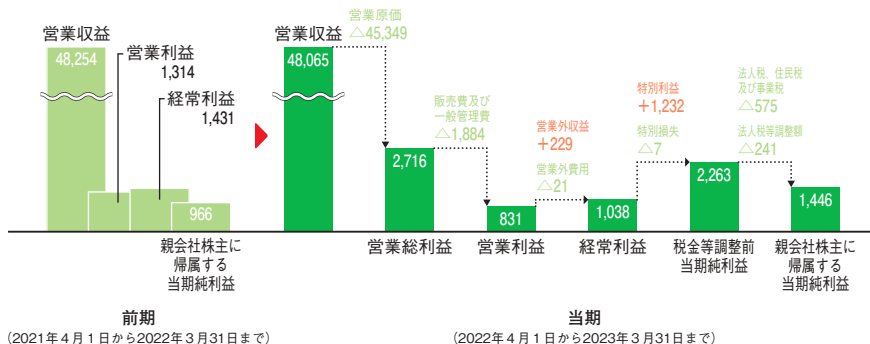
4 営業活動によるキャッシュ・フロー
21億80百万円の収入（前期は27億29百万円の収入）となりました。この主な要因は、税金等調整前当期純利益と減価償却費の計上による収入であります。

5 投資活動によるキャッシュ・フロー
1億9百万円の支出（前期は36億28百万円の支出）となりました。この主な要因は、固定資産の取得による支出と固定資産の売却による収入であります。

6 財務活動によるキャッシュ・フロー
13億38百万円の支出（前期は7億88百万円の収入）となりました。この主な要因は、借入金の返済と配当金の支払による支出であります。

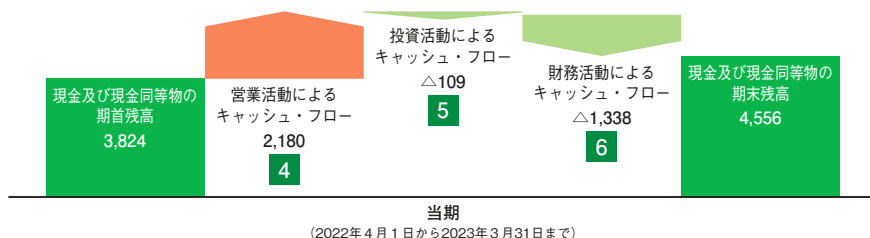
連結損益計算書の概要

(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



会社情報・株式の状況

会社概要

社名	株式会社エスライン
英文社名	S LINE CO.,LTD.
設立	1947年3月10日
資本金	22億3,773万1,515円
上場取引所	東京証券取引所 スタンダード市場 名古屋証券取引所 プレミア市場
本社所在地	岐阜県羽島郡岐南町平成四丁目68番地 電話 (058) 245-3131 (代表)
従業員数	2,145名 (連結)

株式の状況

発行可能株式総数	40,847,000株
発行済株式の総数	11,095,203株
株主数	8,487名

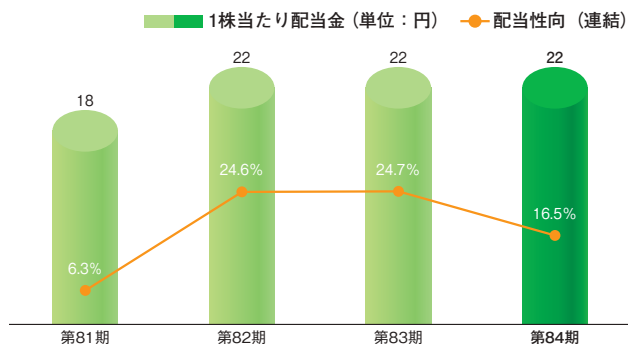
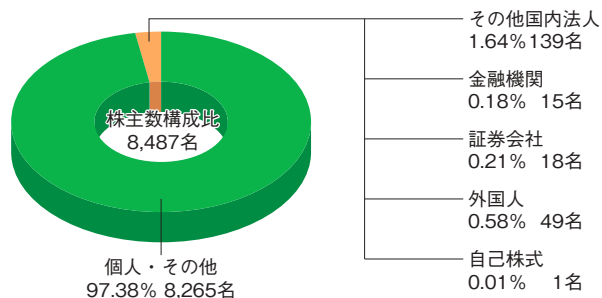
大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数 千株	持株比率 %
株式会社大垣共立銀行	500	4.56
みずほ信託銀行株式会社	500	4.55
株式会社十六銀行	493	4.50
株式会社三菱UFJ銀行	385	3.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	370	3.37
明治安田生命保険相互会社	363	3.31
東京福山通運株式会社	361	3.29
エスライン従業員持株会	350	3.19
株式会社市川工務店	320	2.91

役員 (2023年6月28日現在)


代表取締役社長	山口 嘉彦
取締役副社長	堀江 繁幸
専務取締役	白木 武
常務取締役	青木 浩一
取締役	笠井 大介
取締役 (常勤監査等委員)	村瀬 光明
社外取締役 (監査等委員)	中村 源次郎
社外取締役 (監査等委員)	岡本 実
社外取締役 (監査等委員)	林 一成

株式分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当基準日 期末配当 毎年3月31日、中間配当 毎年9月30日
定時株主総会 毎年6月
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
 みずほ信託銀行株式会社
公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://sline.co.jp/>
 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等で株式を保有されている場合	証券会社等で株式を保有されていない場合 (特別口座の場合)
住所変更、株式配当金受取り方法の変更などのお問い合わせ	お取引の証券会社等になります。	当社の特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行へお問い合わせ願います。 みずほ信託銀行 証券代行部 ホームページ： https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html フリーダイヤル：0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
未払配当金、その他当社株式関係書類についてのお問い合わせ	右記みずほ信託銀行までお問い合わせ願います。	
ご注意		特別口座では、単元未満株式の買取り以外の株式売買はできません。株式の売買にあたっては、証券会社等に口座を開設し、株式の口座振替手続を行っていただく必要があります。

株主優待制度について

- 対象となる株主様
毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上を保有する株主様を対象といたします。
- 贈呈品
①当社株式保有年数が3年未満の場合 クオカード(1,000円分)1枚
②当社株式保有年数が3年以上の場合 クオカード(2,000円分)1枚
※「当社株式保有年数が3年以上の場合」とは、株主様が同一の株主番号で2020年3月31日の株主名簿から2023年3月31日までの中間期・期末株主名簿に記載または記録されていることをいいます。
- 贈呈時期
毎年、定時株主総会終了後の6月下旬に、「定時株主総会決議ご通知」とともにお送りいたします。



SDGsの取り組みのご紹介

新設した(株)エスラインギフ海老名支店・海老名物流センターにおいて、環境に配慮した取り組みとして、また、万一の災害時等の備えとして、以下の設備を導入いたしました。
 ・洗車や散水等に使用できる、雨水再利用システムの導入
 ・自家消費を目的とした太陽光パネルおよび蓄電池の設置



太陽光パネル



蓄電池

また、当社グループでは、積極的にEVトラック(電気トラック)の導入も行っております。これからも環境に配慮した取り組みを進めてまいります。

株式会社 エスライン

〒501-6013 岐阜県羽島郡岐南町平成四丁目68番地
 TEL：058-245-3131 FAX：058-240-4850
<http://sline.co.jp/>
 当社ウェブサイトも、ぜひご覧ください。

エスライン

検索

